

原油ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2022/01/31号

マーケットエッジ株式会社 小菅努



【現状確認】



(注) 2021/09/12まではWTI原油価格連動型上場投信のデータ (出所) Refinitivよりマーケットエッジ作成

地政学リスクを背景に2014年10月以来の高値更新

NY原油先物相場は、1バレル=86ドル台後半まで値上がりする展開になった。地政学リスクの高まりを背景に、期近限月主導の上昇地合が維持された。ロシアがウクライナに侵攻するリスク、中東の地政学環境の不安定化を受けて、需給環境に大きな混乱が生じるリスクが警戒されている。北半球の寒波による暖房用エネルギー需要もポジティブ材料視されている。2014年10月以来の高値を更新している。

ウクライナ情勢を巡っては、米口間などの様々なチャンネルで協議が行われているが、目立った進展はみられない。北大西洋条約機構 (NATO) との勢力圏が隣国ウクライナにまで広がることをロシアは強く警戒し、ウクライナのNATO加盟が行われない確約が求められている。しかし、NATO側はこうした確約を拒否しており、各国がウクライナ周辺の軍備を増強する緊張感の強い状態が維持されている。現時点では具体的な供給障害が発生している訳ではないが、仮にロシア産原油供給に何等かの影響が生じた際のショックは極めて大きくなるのが確実だけに、期近限月が特に大きく上昇している。

米エネルギー情報局 (EIA) 発表の米石油在庫 (1月21日時点) は、原油が前週比238万バレル増、ガソリンが130万バレル増、石油精製品が280万バレル減となった。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項 (ディスクレマー) をお読み下さい。

原油ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

【展望】

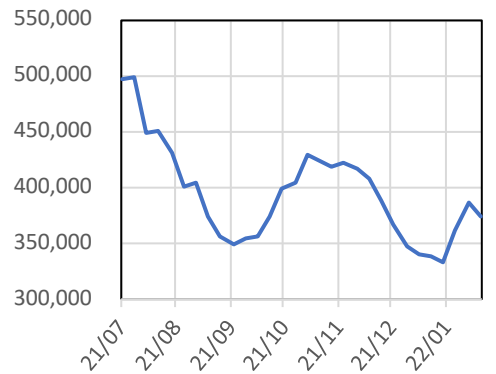
地政学リスクへの警戒続くと90ドルも、OPECプラス会合に注意

地政学リスクに対する警戒感が維持されると、上値追いの展開が続き易い。ウクライナ情勢を巡っては、冬季オリンピックを前にロシアの侵攻が行われる可能性は低いが、高いレベルの緊張感が維持され易い。外交的な問題解決の動きが強まると急反落するリスクを抱えているが、実現可能性は低い。また、中東ではイエメン内戦に絡んで武装組織「フーシ派」の活動が活発化しており、新たな攻撃が行われ、特に石油関連施設にダメージが生じた際にも急伸するリスクを抱えている。85ドルの節目が抵抗線として機能せず、90ドル突破を打診する展開になろう。

2月2日には石油輸出国機構（OPEC）プラス会合が開催される。原油相場の急騰で増産加速の議論も一部で浮上しているが、従来通りに3月も日量40万バレルの増産対応を継続する可能性が高い。地政学リスクが高まっているものの、現実の供給障害が発生している訳ではなく、政策調整に向けての協議が進展しているとは言い難い。消費国側からも、特に目立った追加増産の要請などは出されていない。イベントリスクとして注意が必要だが、無風通過がメインのシナリオになろう。

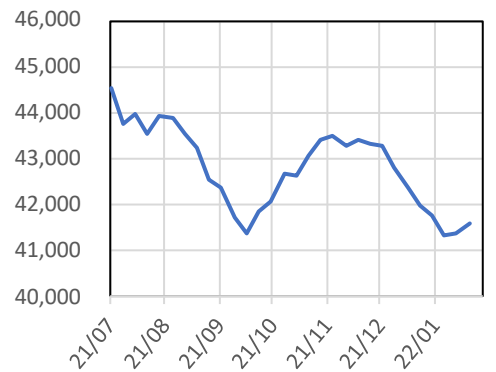
1月25～26日の米連邦公開市場委員会（FOMC）のタカ派評価から、為替市場で急激なドル高圧力が発生していることはネガティブ。2月4日には1月雇用統計の発表も予定されているが、ドルの急伸地合が続いた場合には、原油需給環境と関係なく調整売りが広がる可能性はある。また、北半球の寒波による需要刺激が続いているが、需要期が終わると供給過剰リスクの高まりが調整売りを誘う可能性がある。気象予報にも注目したい。

(枚) NY原油先物 大口投機筋ネット建玉



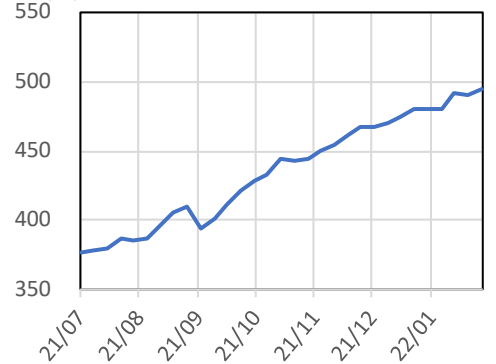
(出所) CFTCよりマーケットエッジ作成

(万バレル) 米原油在庫



(出所) EIAよりマーケットエッジ作成

(基) 米石油リグ稼働数



(出所) Baker Hughesよりマーケットエッジ作成

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

【ディスクレーマー（免責条項）】

本レポートは、本取引所がマーケットエッジ株式会社から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、マーケットエッジ株式会社に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、マーケットエッジ株式会社（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 マーケットエッジ株式会社（Marketedge Co., Ltd.）

【所在地】 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-18-1（古川ビル4F）

【URL】 <https://www.marketedge.co.jp/>

【電話】 TEL : 03-6661-9498 【E-mail】 info@marketedge.co.jp

小菅努（こすげ・つとむ）プロフィール

1976年千葉県生まれ。筑波大学社会学類卒。商品先物会社の営業本部、ニューヨーク事務所駐在、調査部門責任者を経て、2016年にマーケットエッジ株式会社を設立、代表に就任。金融機関、商社、事業法人、メディア向けのレポート配信、講演、執筆などを行う。

最新情報は
ツイッターで

